

【聽譯】 愛き夜道



たま

向こうの世界は いつも
賑やか
だけど どこか つまら
なそうだ
『一緒に笑える』それだ
けのこと
とても大切なこと

たま

對面的世界 總是很熱鬧

但是 總覺得哪兒 有些
無趣
『能一起歡笑』只有這一
點
是極為重要的事

ランコ

教えてくれた君への感謝
は
尽きないけど 「ありがと
う」とは
照れくさくて 言えそう
にない
今夜も 黙って乾杯

ランコ

你告訴我種種的感激之情

無以言表 就連一句「謝
謝」
都羞澀得 難以啓齒

今晚也 默默乾杯

たま

ランコ

「憂世鬱世」云々 嘆き節

肴に呷る 酒の苦味よ
けれども染み入り酔いぬ
のは
君と居るからこそ

たま

ランコ

聊起「憂世鬱世」云云
悲嘆處
魚膾入口 苦酒滑腸
卻說酒醺而未醉

但因有你在身旁

雨天決行

月夜に想い耽る
一方的な送り舟
何時 何時苦しみ酒が染
み

またあの日を慈しみ
癖に成る様な嫌な辛味
酒は進めど蟠り
盃に君を投影
する度波紋や花見月
瞳が嵩を増さす
揺れる心は過度な摩擦
笑い話
にも出来ずに 想いは盥
回し

雨天決行

月夜下思緒漸遠
有去無還的客船
從何時起 苦酒沁心

又憶起那日慈悲
討厭卻又成癮了的這辣酒
推杯換盞 心怒難熄
杯中你的投影
定睛欲看時波紋映月
眼瞳瞪大
搖擺的心過度摩擦
言笑之話
也想不出一句 顧左右而
言他

たま

ランコ

それでも
も回る世界

雨天決行

そう変わらず
二人は存在してる

たま

ランコ

今でも
垢抜けない

雨天決行

想いが交差し
後悔し寝る

たま

ランコ

即便如
此世界還在旋轉

雨天決行

對的 不變的
兩人也還存在

たま

ランコ

現在也
是蓬頭垢面

雨天決行

心緒纏結 後
悔着入眠

たま

ランコ

たま

ランコ

向こうの世界は 平穩無事

だけど どこか 息苦し
そうだ

肩の力を 抜き 過ごせ
る

場所ではないのだろう

對面的世界 平穩無事

但是 總覺得哪兒 喘不
上氣來

是要放下重負忍辱苟活麼

現在也還沒到那種程度吧

たま

ランコ

「渡世は厭世」云々 恨み
節

肴に浸る 酒の苦味よ
けれども染み入り酔いぬ
のは

君と居るからこそ

たま

ランコ

聊起「渡世即是厭世」云
云 悲恨處

魚膾溶口 苦酒滑腸
卻說酒醺而未醉

但因有你在身旁

ランコ

僕は 名前も 知られて
ない

君の 周りには 人集り
だから 僕は
少し 離れた 場所で
君を見ていた

ランコ

你甚至不知道我的名字

你的周圍人羣擁聚
所以我選擇
在稍微離遠一些的地方
注視着你

たま

たま

薄ざわめき 雲隠れの月
妙に 肌寒い 夜の小道
足元を照らす程度でいい

今夜は 灯りが欲しい

淡淡薄雲 遮掩明月
微微寒風拂面 夜間小道
只要能照亮腳邊的程度就
夠

今晚想要些燈火

雨天決行

当面の予定は未定
そう透明で依然 差し出
す両手
二人が見ず知らず
何て想いだす意気地無し
未来予想すら
幾ら重ねても肥大妄想
喉を詰まる言いたい事
弱音を吐き崩れる膝小僧

たまにの晩 釈然の晩酌
全能まではいかず
「また、いつか」だけは誓
う
それで明日が始まりだす

実が無い話も根も葉も堀
り
二人の時間に華を咲かす
実感出来れば有終の美

雨天決行

眼下の予定は尚未確定
即是未知卻依然 伸出的
雙手
兩人尚是陌路
爲何會想起懦弱的一面
就連對未來的預想
諸事重重都是妄想
堵在喉口想說的事
說出口卻全是泄氣的軟骨
頭

偶然的夜晚 釋然的酒宴
卻不能如願全能
「那麼，何時再聚」只有
這句約定
就憑這句明日奮鬥新的一
天

完全無實的話卻能刨根問
底
兩人的時光如曇花一現
如果能有實感的話也想有

終之美

貴方の立場も重々承知

你的立場我也一清二楚

たま

ランコ

向こうの世界が 幕を閉
じて

彼らは 大きく 息をつ
いた

僕らもいずれ 別れるだ
ろう

それぞれの行く先

たま

ランコ

對面的世界 落下了帷幕

他們開始鼾聲四起

我們某日也將相互道別吧

走向各自不同的方向

ランコ

たま

君との別れは ちょっと
悲しいけど

涙の別れは もっとつら
い

だから 僕は きっとそ
の時

笑いながらに言うよ

ランコ

たま

和你的訣別 雖有些悲傷

但流淚的告別 也更難受

所以我決定 到那時一定

會一邊笑着一邊說

たま

ランコ

雨天決行

二人 騒ぎ 二人 酔い耽
る

今夜が 最後でもないのに

たま

ランコ

雨天決行

兩人喧鬧 兩人沉醉

明明今晚還不是最後

僕の 視界が ぼやけてい 我的視線漸漸模糊
く

袖で こっそり拭う 提起衣袖偷偷拂去

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
薄雲越えて	注ぐ月明かり		穿透薄雲灑落的月光		
君と 寄り添って	この夜		和你 並肩走在	這條小道	
道					
今夜は 月が明るいけど			今夜月光還算明亮		
もう少し このまま			還想這樣繼續一會兒		

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
「憂世鬱世」云々	嘆き節		聊起「憂世鬱世」云云	悲	
			嘆處		
肴に呷る 酒の苦味よ			魚脩入口 苦酒滑腸		
けれども染み入り酔いぬの			卻說酒醺而未醉		
は					
君と居るからこそ			但因有你在身旁		

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
「渡世は厭世」云々	恨み節		聊起「渡世即是厭世」云云		
			悲恨處		
肴に浸る 酒の苦味よ			魚脩溶口 苦酒滑腸		
けれども染み入り酔いぬの			卻說酒醺而未醉		

は

君と居るからこそ

但因有你在身旁

以上歌詞標註了三人配合時每人負責唱的部分，

たま

是魂音泉，

ランコ

是豚乙女，還有男聲

雨天決行

。歌詞用的和語詞比較多，意向有些難以把握，上面的翻譯只是憑藉我個人的理解。

下面給出標上了假名適合跟唱的版本，順便在右邊配上一些難以翻譯的字詞的解釋：

たま

む 向 せかい こうの 世界 は いつも いつも
にぎ 賑 やか

だけど どこか つ 詰 まら
なそうだ

『 いっしょ 一緒に わら 笑 える 』 それだ
けのこと
たいせつ とても 大切 なこと

たま

にぎ 賑 やか：喧囂，吵雜，熱鬧

ランコ

おし 教 えてくれた きみ 君 への かんしゃ 感謝
は

ランコ

尽^つきないけど 「ありがと
う」とは

照^てれくさくて 言^いえそう
にない

今夜^{こんや}も 黙^{だま}って 乾杯^{かんぱい}

尽^つきない：無法完全表達
出來

たま

ランコ

「憂^{うきよ}世^{うつせ} 鬱^{うんぬん}世^{なげ}」云々 嘆^{なげ}き
節^{ぶし}

肴^{さかな}に 呷^{あお}る 酒^{さけ}の 苦味^{にがみ}よ
けれども 染^しみ入^いり 酔^よい
ぬのは
君^{きみ}と 居^いるからこそ

たま

ランコ

憂^{うきよ}世^{うきよ} 即^{うきよ} 浮世^{うつせ}，佛教厭世觀
的說法。「憂^{うきよ}世^{うつせ} 鬱^{うきよ}世^{うつせ}」即是
說「這個浮躁變換的世界
也是令人憂鬱的世界」。
節^{ぶし}：那時，那一刻，那一
點。

染^しみ入^いり：酒勁上頭。酔^よ
いぬ：不醉。

雨天決行

月夜^{つきよ}に 想^{おも}い 耽^{ふけ}る

一^{いっ}方的^{ぽう}な 送^{おく}り 舟^{ふね}

何^{いつ}時^{いつ} 何^{いつ}時^{いつ} 苦^{くる}しみ 酒^{さけ}が 染^し

雨天決行

想^{おも}い 耽^{ふけ}る：沉浸在思緒
中。

一^{いっ}方的^{ぽう}な 送^{おく}り 舟^{ふね}

何^{いつ}時^{いつ} 何^{いつ}時^{いつ} 苦^{くる}しみ 酒^{さけ}が 染^し

み

またあの日を慈しみ

癖に成る様な嫌な辛味

酒は進めど蟠り

盃に君を投影

する度波紋や花見月

瞳が嵩を増さす

揺れる心は過度な摩擦

笑い話

にも出来ずに想いは

盥回し

わだかま

蟠り：語源是千足蟲很多腳快步走過的樣子，引申義在這兒可以有兩種解釋，其一是酒杯像蟲腳一樣快快下肚，其二是心中煩悶和厭惡之情難以消解。

とうえい

投影：這裏下句加する是做動詞，將你投影進杯中。

はなみづき

花見月：花中月，代指農曆三月，這裏可能是本意也可能是點出時間的引申意。

かさ

嵩：面積，體積。

たらいまわ

盥回し：迂迴，不切中主題的方式，推諉責任的態度

たま

ランコ

それで

まわ
も 回 る 世界

雨天決行

か
そう 変 わらず

ふたり
二人 は 存在 してる

たま

ランコ

いま
今 でも

あかぬ
垢 抜 けない

あかぬ
垢 抜 ける：本意清掃灰塵，延伸到整潔的樣子，否定形式表示蓬頭垢面的樣子。

雨天決行

まま
想 い が 交 差 し

こうかい
後 悔 し 寝 る

まま
想 い が 交 差 し：這裏歌詞
当て字標作「想 い が 交 差 し」直譯是「思緒相互交錯」，唱出來的是「ま
ま」兩個音。

たま

ランコ

む
向 こう の 世界 は
へいおんぶじ
平 穩 無 事

けど どこか 息 苦 し
そう だ

かた
肩 の 力 を
ちから
ぬ
抜 き
す
過 ぎ
せる

ばしょ
場 所 で は な い の だ ろ う

たま

ランコ

對 面 的 世 界 平 穩 無 事

但是 總 覺 得 哪 兒 喘 不
上 氣 來

是 要 放 下 重 負 忍 辱 苟 活 麼

現 在 也 還 沒 到 那 種 程 度 吧

たま

ランコ

たま

ランコ

とせい えんせい うら ぶし
「渡世は厭世」 恨み節

さかな ひた さけ にがみ
肴に 浸る 酒の 苦味よ

けれども 染み入り 酔い
ぬのは

きみ い
君と 居るからこそ

聊起「渡世即是厭世」云
云 悲恨處

魚脩溶口 苦酒滑腸

卻說酒醺而未醉

但因有你在身旁

ランコ

ぼく なまえ し
僕は 名前も 知られ
てない

きみ まわ ひと たか
君の 周りには 人集
り

だから ぼく
僕は

すこ はな ばしょ
少し 離れた 場所で

きみ み
君を見ていた

ランコ

你甚至不知道我的名字

你的周圍人羣擁聚

所以我選擇

在稍微離遠一些的地方

注視着你

たま

すすき くも がく
薄ざわめき 雲隠れの
つき
月

みょう はだ ざむ よ
妙に 肌寒い 夜の

こみち
小道

あしもと て ていど
足元を 照らす 程度でい
い

たま

淡淡薄雲 遮掩明月

微微寒風拂面 夜間小道

只要能照亮腳邊的程度就
夠

今夜は 灯りが欲しい

今晚想要些燈火

雨天決行

当面の予定は未定

そう透明で依然 差し出す両手

二人が見ず知らず

何て想いだす意気地無し

未来予想すら

幾ら重ねても肥大妄想

喉を詰まる言いたい事

弱音を吐き崩れる

膝小僧

たまにの晩 釈然の晩酌

全能まではいかず

「また、いつか」だけは誓う

それで明日が始まりだす

実が無い話も根も葉も堀り堀り

雨天決行

眼下の予定は尚未確定

即是未知卻依然 伸出的雙手

兩人尚是陌路

為何會想起懦弱的一面

就連對未來的預想

諸事重重都是妄想

堵在喉口想說的事

說出口卻全是泄氣的三歲小孩

偶然的夜晚 釋然的酒宴

卻不能如願全能

「那麼，何時再聚」只有這句約定

就憑這句明日奮鬥新的一天

根も葉も堀り：日語慣用語 根掘り葉掘り表示

ふたり じ はな さ
二人の時間 に 華 を 咲か
す

じっかん でき ゆうしゅう び
実感 出来 れば 有終 の 美

あなた たちば じゅうじゅうしょうち
貴方 の 立場 も 重々 承知

刨根問底

兩人的時光如曇花一現

如果能有實感的話也想有
終之美

你的立場我也一清二楚

たま ランコ
む せかい まく
向 こうの 世界 が 幕 を
と 閉 じて

かれ おお いき
彼 らは 大 きく 息 を
ついた

ぼく わか
僕 らもいずれ 別 れるだ
ろう

ゆ さき
それぞれの 行 く 先

たま ランコ
對面的世界 落下了帷幕

他們開始鼾聲四起

我們某日也將相互道別吧

走向各自不同的方向

ランコ たま
きみ わか
君 との 別 れは ちょっと
かな 悲 しいけど

なみだ わか
涙 の 別 れは もっとつ
らい

ぼく
だから 僕 は きっとそ
とき
の 時

ランコ たま
和你的訣別 雖有些悲傷

但流淚的告別 也更難受

所以我決定 到那時一定

わら
笑 いながらに 言 うよ

會一邊笑着—一邊說

たま ランコ 雨天決行

ふたり 騒 ぎ ふたり よ
二人 騷 ぎ 二人 醉

ふけ
い 耽 る

こんや さいご
今夜 が 最後 でもないの

に

ぼく しかい
僕 の 視界 が ぼやけて

いく

そで ぬぐ
袖 で こっそり 拭 う

たま ランコ 雨天決行

兩人喧鬧 兩人沉醉

明明今晚還不是最後

我的視線漸漸模糊

提起衣袖偷偷拂去

たま ランコ 雨天決行

うすくも こ そそ つき あ
薄雲 越 えて 注 ぐ 月 明

かり

きみ よ そ
君 と 寄 り 添 っ て この

よみち
夜道

こんや つき あか
今夜 は 月 が 明 るいけど

すこ
もう 少し このまま

たま ランコ 雨天決行

穿透薄雲灑落的月光

和你 並肩走在 這條小道

今夜月光還算明亮

還想這樣繼續一會兒

たま ランコ 雨天決行

うきよ うつせ うんぬん なげ
「憂世 鬱世」云々 嘆 き

ぶし
節

たま ランコ 雨天決行

さかな あお さけ にがみ
肴に 呷る 酒の 苦味よ
けれども しみ 入り 酔い
ぬのは
きみ い
君と 居るからこそ

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
----	-----	------	----	-----	------

とせい えんせい うら ぶし
「渡世は 厭世」 恨み 節
さかな ひた さけ にがみ
肴に 浸る 酒の 苦味よ
けれども しみ 入り 酔い
ぬのは
きみ い
君と 居るからこそ